

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成30年度第1回高松市国際交流推進協議会
開催日時	平成30年5月9日(水)午後1時30分～午後2時30分
開催場所	高松市役所11階 113会議室
議 題	(1)平成29年度国際交流推進事業実施状況について (2)平成30年度国際交流推進事業について (3)その他について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席者	<委員>稲井委員、岡田委員、塩田委員、小松委員、太良尾委員、 時岡委員、徳田委員、平田委員、舟木委員、森委員 <市>創造都市推進局長、文化・観光・スポーツ部長、観光交流課 都市交流室（事務局）
傍聴者	0人 （定員 5名程度）
担当課及び連絡先	観光交流課 都市交流室（Tel839-2197）

審議経過及び審議結果
<p>議題(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時岡委員から、昨年のエルバートン市との交流35周年について報告があった。 3月にエルバートン市長を始め10名の方が来日し、市長表敬訪問のほか県内各地を訪問した。一層絆が深まった。今後も活発に活動していく予定としている。 <p>議題(2)について</p> <p>事務局の説明に対し、下記の質問があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての取組は素晴らしいと思う。2月に実施した小学生との交流事業は、何人ぐらい参加したのか。また、車いす体験のほかどのような交流を行ったのか。 ●屋島小、屋島西小、屋島東小の児童約180名のほか、地元パラアスリートが参加した。 <p>車いす体験のほかに、ジャベリックを座って投げる、立って投げる両方の体験をし、その違いを感じてもらった。また、パラリンピアンに講演をしていただい</p>

たほか、地元のパラアスリートと台湾のパラリンピアンに、やり投げの実演をしてもらった。

交流事業終了後のアンケートでは、「障がい者の気持ちが分かった」「東京オリンピック・パラリンピックで台湾の選手を応援したい」という声があり、台湾を身近に感じてもらうとともに東京オリンピック・パラリンピックに向けて機運を醸成する事が出来た。

○基隆市は高松市の友好都市と呼ぶことができるのか。

●友好都市と呼ぶことはできない。姉妹・友好都市の定義としていわれていることは、全方面においての交流であること、議会の議決があること、協定書の締結があることという3点である。基隆市との協定は、観光を中心として文化・スポーツ・教育等内容は全面的であるが、議会の議決がないため、友好都市ではなく「交流都市」である。

○2020年オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、具体的にどのような取組をしているのか。

●ホストタウンの交流としては、大きくスポーツ、観光、文化の3本柱があり、加えて共生社会ホストタウンでは、ユニバーサルデザインの推進に取り組んでいる。スポーツ交流を例に挙げると、台湾の選手との交流、パブリックビューイング、事前合宿の誘致に取り組む予定である。

○玉藻公園の看板で、中国語表記が間違っているものがあるので、対応をしていただきたい。

●確認して対応する。

○基隆市との交流協定締結1周年記念事業は、いつ開催を予定しているのか。

●9月に本市で開催される日本パラ陸上競技選手権大会にあわせて、台湾からパラリンピアンを招へいする予定であり、基隆市とのイベントも同日に開催することを計画をしている。

○韓国群山市とは、民間レベルでどのような交流が行われているのか。

群山市とは、香川日韓交流協会が主となって、こども絵画交流展の相互開催等の交流事業を行っている。

議題(3)について

- ・第12回（平成29年度）自治体国際交流表彰（総務大臣賞）について
- ・トウル市姉妹都市提携30周年記念事業について

【その他意見交換】

○留学生に地元で働いてもらい、日本とその国の架け橋になってもらいたいと考えているが、在住外国人の定着に向けた取組は。

●本市の在住外国人の人口は増加している状況であり、国際交流協会と役割分担をして支援に取り組んでいる。多言語メルマガ（英語・中国語）を利用したイベント情報の発信や、また今後の課題として、災害時にはメルマガのアドレスを利用して情報の配信ができると考えている。また、ホームページが多言語化になったため、ホームページから災害時の情報を確認することができる。

○トゥール市に派遣された親善研修生に、フランス料理を学んでいる方や将来教える立場になる方が選ばれたことは、とても素晴らしいことだと思う。

○最近インバウンドが多くなってきており、中国や韓国の方が増えているが、留学生はベトナムやイスラム圏からの方が増えている。ベトナムの留学生は、英語が分からない人も多いので、ベトナム語表記等の支援がもっと必要ではないかと感じている。また、イスラム教への理解が十分でなかったり食事の問題もある。まずは、我々の彼らに寄り添うという意識を高めていくことが必要である。

○香川大学では学生から声があがり、学生がハラル食を提供する場所について調査する活動を始めている。大学もサポートしていこうとしているので、結果がまとまれば役立てていただきたい。

※ ○委員 ●事務局